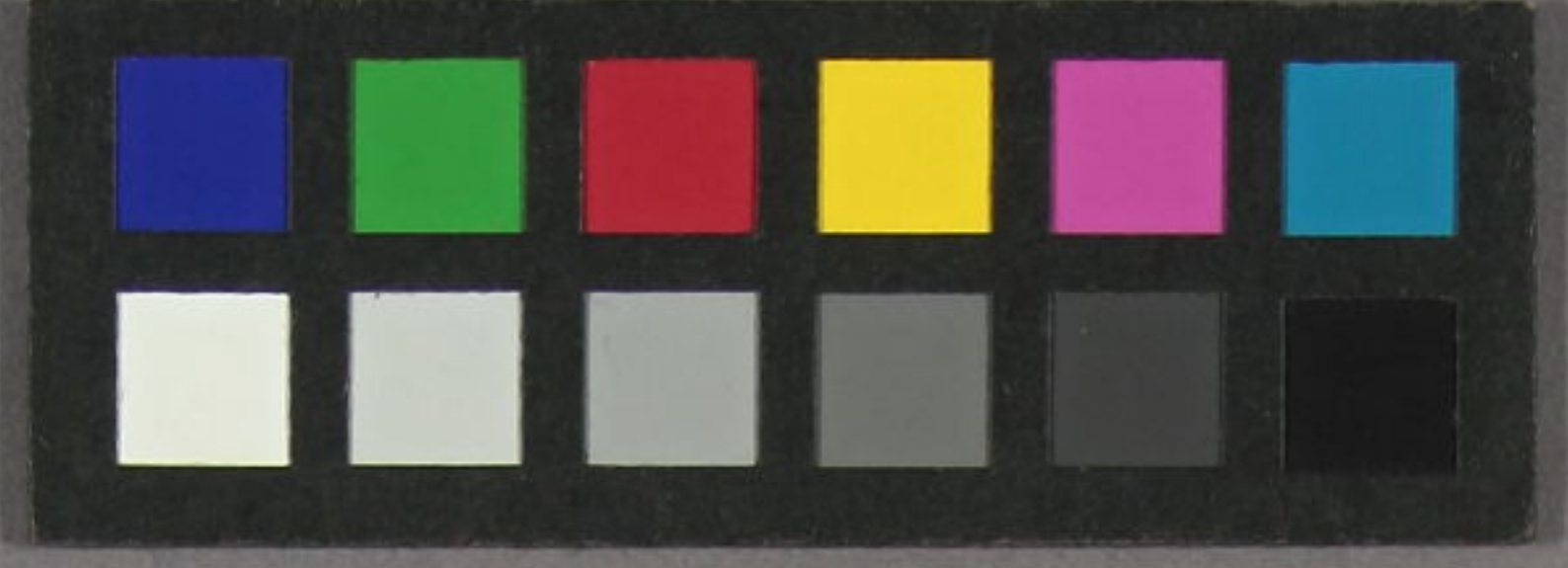


胞衣納之卷



凡此の没人の母方のもの
 しては之れをいふ事にも
 正代を至りては平家乃
 無一人果報何れも人を
 母として所存ありてあり
 うれ又時のあらしむに
 降ふといふ事の教を
 何のつゝも叶ひ侍る
 奈と一う誰くもなり
 一 弓に散米山掛を海を
 ちの中にあつた土器
 と一まきりして中へ
 何れものゝあつた
 あつた臨場の皆いふ
 厨中 以布 麻 等
 ひをひ紙よ包むるも



厨中 日以希 麻苧 び
ひまひ紙よ包みおし
かし 粟友よ 小男 女の 膝を
画一紙一筆か のよ
調五法 産の さら 母中
こころし

一子 出胎の時 此方 を 留ひ 又
産は もち 押へし 中央
利益 堅牢 地神 許出 胎
哲 母の 時 破子 一 変 好
父 愛敬 女は 唱へし 又 衆
人 愛敬 不背 我育 月と 子
ハ字 益小 ちて 送 飲 吉し
又 誕生 の 口乃 ころを
己ん ころし 扶ひ 黄蓮
甘草 等 分り ころし ぬ
は ころし 金 ころし

はくし金もなるし

一
ふり何げの老女うの口は
玉女の子へむろのへ臍乃
清とほくくし男子の左
のそく女子の右の何しん
較入麻をひくく二そく結
陰陽はるををあむむす
ひくくをひくくなかりむの
清より出る血を指につけ
子の唇にぬりたえ綿を
拭ひくくくしん時老女
嬰児の長命果報伊美女
昇進警昌を唱くくく女
此唱ひをくくくく時
ほりんの女中側んくく
るし其時迄米をゆゆ
お前の一らんふかろく

るし其所は米をやり
打舟のしらんふからん
らん何もま中の面く
あふししあ難産の時
押桶を出し幾度も底を
めくししわあけ
十二又七ツもろし
一 湯水汲み舟のり
しし此生家のあけ
生年何れし目のみみ
東の舟を流水を舟
へし湯の中へ金路乃
ししをへし
一 舟高引方角のり天醫
福徳の舟へし湯
奉れやまの東へ備へし
一 湯舟の身お拭の事橋端
あはまのりし

一湯峯の身お拭の事搦綿

ふはかあのちをこしよ〜

の〜こはに紅白の糸を

以て鶴の羽と菊の葉をまじ

けらまけしまじりおのちた

た枝をとりししられを

は帯れ美〜〜〜

おのほか少ち衣をまを

へし口傳し〜のく様別

やられ何り

一胎衣好程のちおを以洗ひ

その後酒をふら〜蝶紙

けし包土土無よ又土無よ〜

青箔をけけ〜ふ葉の少ち

葉乃ち方らんふからるおれ

をそく胎衣捕り入白布を

法ひ又おれりれねる也

しるし

一 歎のほしめはふれし

あつちあつちのこころ 顛狂

しるしあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

あつちのこころあつちのこころ

一 上代の傳ふ大人高位の胎を

箱箱の箱の箱の箱に置置

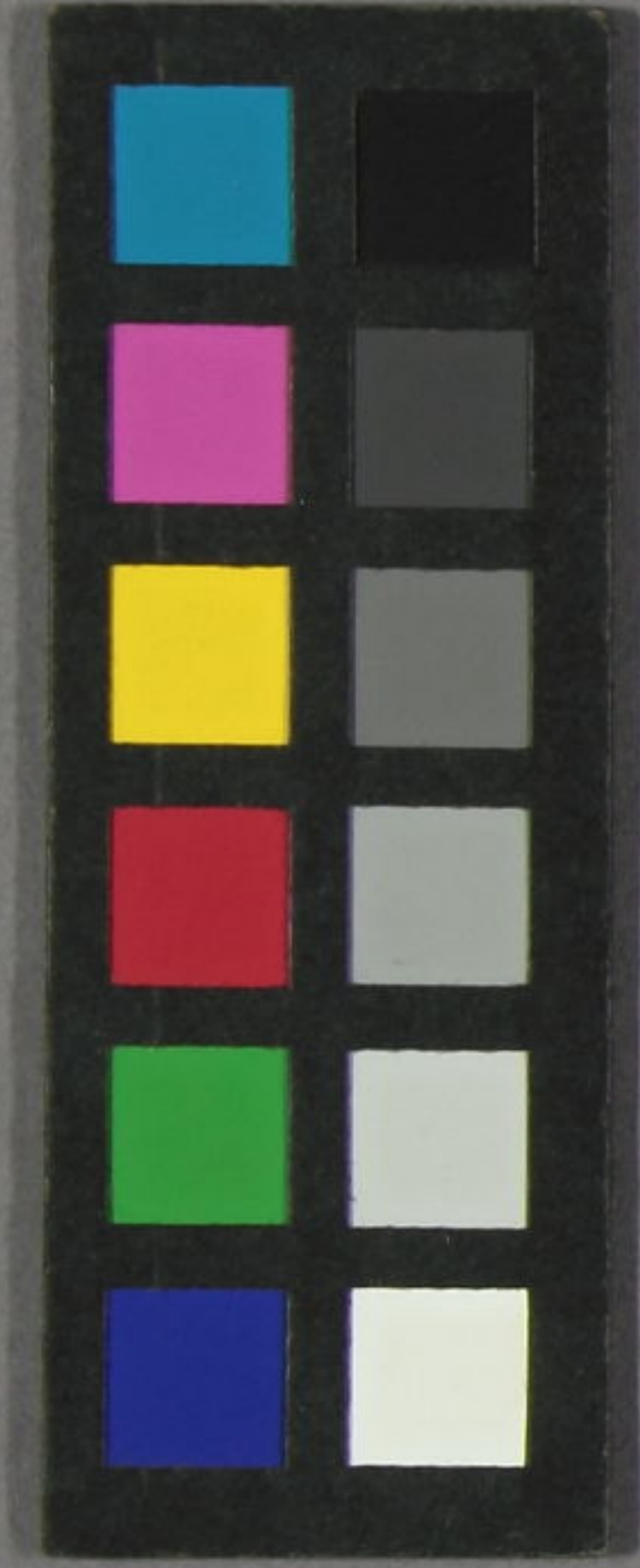
日神酒造清と備はるる

しるし

一人五十子代神宮皇所夷

つゞ

一人五十代 神宮皇孫
國に居る所の時 武王の國に
の跡にありて 應神天皇を
降
詔しし時 絶ちかた
ありしを 承りしなり



73
3645
189



Went to the station
to see the
newly arrived
books

189

73
3645
189